令和６年(2024)度「日本史」解答例

1

A

問１　ア：東海道　イ：東山道

問２　駅家

問３　郡司の子弟や有力農民のうち弓馬に巧みなものを健児に採用し，国府の守衛や国内の治安維持にあたらせた。(49 字)

問４　一般民衆が税負担から逃れようとして，戸籍や計帳に登録された本籍地から離れるのを抑止するため。(46 字)

問５　ウ：淳仁天皇　　エ：法王　　オ：西大寺

B

問６　空海

問７　比叡山に独自の大乗戒壇を創設すること。(19 字)

問８　門流：寺門派　　寺院：園城寺

問９　東密

問10　大日如来

2

問１

⑴　鎌倉将軍との間に，御恩と奉公の主従関係で結ばれた武士のこと。(30 字)

⑵　(a)　源頼朝　　(b)　源義経(or 源行家)

⑶　北条時宗

⑷　クビライ（or フビライ）・ハーン

⑸　軍役：異国警固番役　構築物：石築地

⑹　モンゴルの長期にわたる侵攻や征服に対して高麗やベトナム，南宋の人々が抵抗した。(39 字)

⑺　ア：荘園(or 庄園)　　イ：朝廷

問２

⑴　モンゴル兵が間近で放つ矢や構える槍を恐れず，必死に戦ったことを強調し，竹崎季長の軍功を喧伝するため。(50 字)

⑵　モンゴル軍は音の出る火器や爆弾を用い集団戦を展開したが，日本の兵士は一騎打ちや少人数の行動を採った。(50 字)

3

史料１

問1　首里（城）

問2　イ：土佐（or 肥前）　　ウ：肥前（or 土佐）　　エ：版籍奉還　　オ：知藩事

問３　⑴　1609 年に薩摩藩に征服されたが，王国は存続され中国との朝貢貿易を継続し，薩摩へ中国産物が送られた。琉球は国王の代替わりごとに謝恩使を，将軍の代替わりごとに慶賀使を幕府へ派遣した。(88 字)

⑵　尚泰

問4　琉球処分

史料２

問５　八月十八日の政変

問６　大教宣布の詔

問７　大村純忠

問８　スペインやポルトガルの侵略を招くことへの危機感や，信者らが団結して反逆することを恐れたから。(46 字)

問９　隠れキリシタン(or 潜伏キリシタン)

問10　浦上（村）

問11　寺院が檀家であることを証明する寺請制度を設け，宗門改めを実施した。(33 字)

4

史料１

問１　日中戦争や太平洋戦争に比べて短期で終結したから。

問２　⑴　ア：東学

⑵　朝鮮を自国の利益線とみなす日本と，宗主権を主張する清国の利害とが対立したから。(39字)

史料２

問３　⑴　吉野作造　　⑵　民本主義

問4　⑴　1911 年の関税自主権回復による独立回復から，10 年と経っていなかったから。(35 字)

⑵　松岡洋右

史料３

問５　イ：円本　　ウ：改造

問６　⑴　万朝報

⑵　幸徳秋水，内村鑑三，堺利彦から 1 名

問７　作文

問８　⑴　エ：日本文学報国会　　⑵　足利尊氏

問９　日本共産党

史料４

問10　1960 年の日米安全保障条約で条約期限を 10 年と定めていたから。(29 字)

問11　⑴　オ：日本社会党　　⑵　新左翼

講評（2024 年度「日本史」出題委員）

例年，受験生が頑張って取り組んでくださり，大変嬉しく感じ入っています。
それを前提に，以下，講評を述べるので，次年度以降の参考にしてください。

大問 1 は，古代史を中心にした出題でした。問 1 は，基本的な知識（古代史に限らない）を問うものです。こうしたものを取りこぼさないように，普段から基礎力をしっかり身につけてほしいと思います。
大問 2 は，中世史を核としています。問 2⑴では，御家人の竹崎季長が国（あるいは将軍）のため防衛戦に命をかけたという答案が散見されました。けれども，本当にあなたが同じ立場に立ったらそういう風に考えるでしょうか。我々としては，自分のごく自然な感情も大切にしてほしいと考えています。加えて，問 1 の「御恩」について，いったい何のためのそれなのか，ここで併せ振り返ることも必要でした。
大問 3 は，近世史を軸とした出題です。問 3 の琉球王国と幕藩制国家日本との関係を，「冊封関係を模した」もの，というように説明する答案が複数件ありました。おそらく，中国明清の皇帝から琉球国王が冊封されたのになぞらえ，日琉関係が措定されたと考えているのでしょう。けれども，幕府や薩摩藩と琉球国王との関係に，本当にそうした了解事項が実在したのか，もう一度よく考え直してほしいと思います。
大問 4 は，近現代の問題です。日本共産党（問 9）や日本社会党（問 11⑴）を書けない答案が存外多いのに驚きました。とくに前者は，現在まで存続している政党です。受験生の多くは，選挙権獲得が間近な年齢でしょうから，普段から新聞やニュースに接するよう心がけてください。受験生諸氏の，政治意識が問われています。

あとは，全体的な所感を述べます。本学の入試では，大問は古代・中世・近世・近現代と分けて出題していますが，なかには，時代をまたぐ出題をすることもあります。それは，普段から時代にあまり囚われないで勉強してほしいと願っているからです。とりわけ，位階や官職，行政区分などは，一時代のみの事柄ではありません。大問 1 の B の天台宗・真言宗などは，今でも存続しています。基礎的な知識として，やはり蓄えておく必要があるのです。
また，例年通り，今年度も誤字・誤用が多かったことを指摘せざるをえません。たとえば，「朝廷」を「朝延」，「恩賞」を「恩償」，「奉公」を「奉行」，「寺檀」を「寺壇」，「戒壇」を「戒檀」，「にも拘わらず」を「にも関わらず」などと書く答案が頻見されます。普段から，漢字の書き取りをおろそかにしないでください。コツは，その漢字の意味を深く考察することです。「恩賞」であれば，肯定的な褒美なのですから，「賠償」のようにはどうやってもなりません。
そして，採点者の立場から言えば，はっきり，濃く答案を書いてほしいという点も付け加えておきましょう。薄い字で，なにやら誤魔化しているかのような書きぶりは，初めから信用することができません。何も，美しい文字で書けと言っているのではありません。しっかりした，楷書を書いてください。
また，論述問題の解答では，せっかくキイワードが書けているのに，全体として意味不明な文章を綴る受験生もいました。訊かれたことに応える，これが点数を獲得するために肝腎な事柄です。普段から，過不足なく，論理的に解答（回答）できるよう，鍛錬を重ねてください。

それでは，来年度の受験生の奮闘を，心待ちにしています。